

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 6 部門第 1 区分
 【発行日】平成27年8月13日 (2015.8.13)

【公表番号】特表2014-521070(P2014-521070A)
 【公表日】平成26年8月25日 (2014.8.25)
 【年通号数】公開・登録公報2014-045
 【出願番号】特願2014-519031(P2014-519031)
 【国際特許分類】

G 0 1 N 33/68 (2006.01)
 C 0 7 K 16/28 (2006.01)
 C 0 7 K 16/46 (2006.01)
 C 0 7 K 19/00 (2006.01)

【F I】

G 0 1 N 33/68
 C 0 7 K 16/28
 C 0 7 K 16/46
 C 0 7 K 19/00

【手続補正書】

【提出日】平成27年6月24日 (2015.6.24)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

治療有効量の V E G F R 阻害剤および A n g 2 阻害剤からの臨床的有益性を得る可能性が高いヒト腎細胞癌 (R C C) 患者を識別する方法であって、前記方法は、
R C C 患者の試料中の胎盤増殖因子 (P L G F) の濃度を測定し；そして、
当該患者試料中の前記 P L G F 濃度が P L G F 濃度パラメータより低いかを決定する

、
ここにおいて、前記 P L G F 濃度パラメータより低い P L G F 濃度を有する患者は、治療有効量の V E G F R 阻害剤および A n g 2 阻害剤からの臨床的有益性を得る可能性が高い、

ことを含む、前記方法。

【請求項 2】

前記 A n g 2 阻害剤は、A M G 3 8 6 であり、前記 V E G F R 阻害剤は、ソラフェニブまたはフルオロソラフェニブである、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 3】

前記 A n g 2 阻害剤は、H 4 L 4 であり、前記 V E G F R 阻害剤は、ソラフェニブまたはフルオロソラフェニブである、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 4】

前記 A n g 2 阻害剤は、C V X - 0 6 0、M E D I 3 6 1 7、D X - 2 2 4 0、R E G N 9 1 0、A Z D - 5 1 8 0、C G I - 1 8 4 2、L C 0 6、C G E N - 2 5 0 1 7、R G 7 5 9 4、C V X - 2 4 1、または T A v i 6 のうちの少なくとも 1 つである、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 5】

前記 P L G F 濃度パラメータは、2 2 p g / m L 以上 ~ 4 0 p g / m 以下の血清 P L G

F 濃度である、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 6】

前記 P L G F 濃度パラメータは、2 8 p g / m L の血清 P L G F 濃度である、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 7】

前記 P L G F 濃度パラメータは、平均血清 P L G F 濃度の 1 標準偏差内である、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 8】

前記血清 P L G F 濃度パラメータは、平均血清 P L G F 濃度である、請求項 7 に記載の方法。

【請求項 9】

前記患者 P L G F 濃度は、血漿 P L G F 濃度または血清 P L G F 濃度である、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 10】

前記 V E G F R 阻害剤は、ソラフェニブまたはフルオロ - ソラフェニブである、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 11】

前記 V E G F R 阻害剤は、ソラフェニブである、請求項 10 に記載の方法。

【請求項 12】

前記 V E G F R 阻害剤および前記 A n g 2 阻害剤は、同時に投与される、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 13】

臨床的有益性は、無進行生存である、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 14】

臨床的有益性は、全生存である、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 15】

前記 A n g 2 阻害剤はまた、A n g 1 阻害剤でもある、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 16】

前記 A n g 2 阻害剤は、結合ポリペプチドである、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 17】

前記結合ポリペプチドは、抗 A n g 2 抗体である、請求項 16 に記載の方法。

【請求項 18】

前記 A n g 2 阻害剤は、抗 T i e 2 抗体である、請求項 16 に記載の方法。

【請求項 19】

前記結合ポリペプチドは、二重特異性結合ポリペプチドである、請求項 16 に記載の方法。

【請求項 20】

前記二重特異性結合ポリペプチドは、抗 V E G F R および抗 A n g 2 二重特異性結合ポリペプチドである、請求項 16 に記載の方法。

【請求項 21】

前記二重特異性結合ポリペプチドは、抗 D L L 4 および抗 A n g 2 二重特異性結合ポリペプチドである、請求項 16 に記載の方法。

【請求項 22】

前記結合ポリペプチドは、可溶性 T i e 2 - F c 融合ポリペプチドである、請求項 16 に記載の方法。

【請求項 23】

臨床的有益性の可能性が高い前記ヒト R C C 患者は、前記治療有効量の前記 V E G F R 阻害剤および前記 A n g 2 阻害剤が投与される、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 24】

前記 V E G F R 阻害剤は、ソラフェニブまたはフルオロ - ソラフェニブである、請求項

2 3 に記載の方法。